

本の万華鏡

『減災政策論入門』

永松伸吾著——弘文堂 2008年

推薦者 森栗 茂一  
(もりぐり・しげかず)

大阪大学コミュニケーション・センター教授、都市民俗学者。1954年神戸市生まれ。大阪教育大学卒業後、高校教師を経て、90年大阪外国語大学助教授、後に教授。2007年より現職。専攻は「コミュニケーション・コミュニケーション」。国立民族学博物館共同研究員(都市的なるもの、自律的観光、遺産管理とツーリズム)。主な著書は、「河原町の民俗地理論」(弘文堂)、「しあわせの都市(まち)はありますか」(震災神戸と都市民俗学(鹿野社)、「河原町の歴史と都市民俗学」(明石書店)など。

本書は、シリーズ「災害と社会」の一冊として、「巨大災害リスクのガバナンスと市場経済」の副題で2008年に出版された。著者は防災科学技術研究所の特別研究員を経て、現在、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター研究副主幹である。

防災というと、被害軽減のためのインフラ整備とその費用対効果や、インフラ活用や教育だけであった。しかし、災害は社会の仕組み(課題)を短期的にも中長期的にも可視化する。私たちが災害から逃れえないとするなら、低成長・人口減・高齢化のわが国で、いかにその被害を減らすのかという減災論が必要となる。

同じ災害でも、途上国と先進国とでは人的被害の量が大きく異なる。また、災害で生き残っても、事後の生活再建、地域の復興を考えると、その目標をどこに置くのかは議論が分かれる。弱者救済論は、一方で自助努力(自己責任)論と、かみあわない論争をくりかえす。公助でもなく自助でもない共助だというのが、その方法と目標が示されねばならない。本書は減災の目標を「被害軽減」から「尊厳ある生の保障」に移して再定義している点が、画期的である。

たとえば、震災直後の義捐金、支援物資による贈与経済が、地域経済の再始動にブレーキをかける。贈与から市場への過渡期における、「弁当プロジェクト」のような仕掛けが必要だと主張する。中越沖地震では、地元の鮮魚商組合と料理屋、寿司屋、食堂、飲食業組合が連携し、仕入れから調理、配送までを分担して、被災者、復興作業員の弁当を作り、市場を始動させた。そのなかで、共同の意識が芽生えた。被災直後の贈与経済以後には、自立して尊厳をもって仕事をする生活人(尊厳ある生)＝共同体の利益を、市場を通じて再構築するこうした取り組みが必要であろう。

通常、災害直後は復興特需を見込み、贈与経済のなかで悶着する被災住民を横目に、防災施設や再開発など大型プロジェクトが導入される。しかし、こうした復興期における利益は、その89・4%が移出利益という(阪神・淡路大震災の場合)。さらには、低成長下ではその投資回収が難しく、開発プロジェクトにのって住居や店舗・工場に投資した被災者が苦しみ、地域経済が長く疲弊し、再開発が空室だらけとなる。これは目標を人間の尊厳においていないからである。

本書は豊富な経験から具体的な減災政策を示しているという点で画期的であるが、今後は、被災地の家計と自治体財政をみつめたファイナンス政策も含めた議論が必要であろう。



CEL 家の

from editor's room

- 『〈生活防災〉のすすめ—防災心理学研究ノート』矢守克也 ナカニシヤ出版(2005年)
- 『12歳からの被災者学—阪神・淡路大震災に学ぶ78の知恵』メモリアルコンファレンス神戸 日本放送出版協会(2005年)
- 『地域防災・減災自治体の役割—岩手山噴火危機を事例に—』斎藤徳美 イマジン出版(2005年)
- 『スーパー都市災害から生き残る』河田恵昭 新潮社(2006年)
- 『復興まちづくりの時代』佐藤滋、真野洋介、齋庭伸 建築資料研究社(2006年)
- 『豪雨・洪水災害の減災に向けて ソフト対策とハード整備の一体化』辻本哲郎 技報堂出版(2006年)
- 『路地からのまちづくり』西村幸夫編 学芸出版社(2006年)
- 『夢みる防災教育』矢守克也、船木伸江、諏訪清二 晃洋書房(2007年)
- 『地震イツモノート』地震イツモプロジェクト編 渥美公秀監修 木楽舎(2007年)
- 『地震の日本史—大地は何を語るのか』寒川旭 中央公論新社(2007年)
- 『被災地からおくる防災・減災・復旧ノウハウ—水害現場でできたこと、できなかったこと—』水害サミット実行委員会事務局 ぎょうせい(2007年)
- 『いのちをまもる智慧—被災に挑む30の風景』花村周寛他 レスキューストックヤード(2007年)
- 『これからの防災・減災がわかる本』河田恵昭 岩波書店(2008年)
- 『緊急地震速報—そのとき、あなたは、どうしますか?』渡辺実 角川SSコミュニケーションズ(2008年)
- 『豪雨の災害情報学』牛山素行 古今書院(2008年)
- 『災害と共に生きる文化と教育—「大震災」からの伝言』岩崎信彦他編 昭和堂(2008年)
- 『災害ボランティア論入門 シリーズ災害と社会』菅磨志保、山下祐介、渥美公秀 弘文堂(2008年)
- 『クロスロード・ネクスト—続:ゲームで学ぶリスク・コミュニケーション』吉川肇子、杉浦淳吉、矢守克也 ナカニシヤ出版(2009年)
- 『住宅復興とコミュニティ』塩崎賢明 日本経済評論社(2009年)
- 『防災人間科学』矢守克也 東京大学出版会(2009年)
- 『伝える 阪神・淡路大震災の教訓』兵庫県 ぎょうせい(2009年)